

薬史学会通信

No.35 2003年9月

〒113-0032

東京都文京区弥生2-4-16

(財)学会誌刊行センター内

日本薬史学会事務局

Phone (03) 3817-5821

FAX (03) 3817-5830

日本薬史学会平成15年度年会の お知らせ

- と き 平成15年11月15日(土) 13:00~17:00
- と ころ 昭和大学・上條講堂(東京都品川区旗の台1-5-8)
東急旗の台駅(大井町線・池上線)下車
- プログラム 次ページに掲載
- 参 加 入場無料・来聴歓迎 終了後、懇親会(有料)
- 問 合 先 東京都文京区弥生2-4-16
(財)学会誌刊行センター内 日本薬史学会事務局
電話 03-3817-5821、FAX 03-3817-5830

柴田会長の慶事

本会々長・柴田承二先生は大正4(1915)年10月23日のお生まれで、本年満88歳・米寿を迎えられます。しかも柴田天然薬物研究室でのご研究や、スポーツ(テニス)またご愛車の運転も続けられるなど、ますます御元氣な毎日を過ごされておられます。

この度、先生の門下生はじめ、関係者多数により「柴田承二先生の米寿をお祝いする会」が企画され、本年9月14日、神田学士会館本館で催されました。

なお同時に先生は、ご祖父の柴田承桂・ご尊父の桂太先生に続く、我が国近代科学者の家系を背景に、ご自身の半生を記録・執筆されましたが、当日は、その出版のお祝いの会にもなりました。この本は、類例の無い近現代史の貴重な歴史々料となるでしょう。

「薬史学会通信」関係者一同としても、心からお祝い申し上げます。

日本薬史学会平成15年度年会プログラム

〔会長挨拶〕

〔会員発表〕 (13:00～16:20)

「日本医薬品集」の編集からみた添付文書30年の変遷

(日本医薬情報センター) 近藤 敏子 ○佐々木 宏子

薬学領域よりみたホルモン研究史(3)、尿を原料とした性ホルモン研究の史的意義

(日本薬史学会) 末廣 雅也

新薬50年、新薬開発の流れと病態構造への影響

(応用薬理研) ○小澤 光、佐藤 美由紀

(東北大) 小澤 輝高

中央ヨーロッパの薬局の装飾と古代ギリシア神話

(新見公立短大) 石田 純郎

落語の中の医薬品 第3報

(東京海道病院) 五位野 政彦

日本の売薬(1) 小児五疳薬

(東京理大・薬) ○遠藤 次郎、中村 輝子、田中 一至

(九大) ウォルフガング・ミヒエル

シーボルト記念館蔵「阿蘭陀草花鏡図」の検討

(東京理大・薬) ○中村 輝子、遠藤 次郎

(九大) ウォルフガング・ミヒエル

1660～70年代の日蘭交流における薬草の輸入及び調査について

(九大) ウォルフガング・ミヒエル

(東京理大・薬) ○中村 輝子、遠藤 次郎

世界史の中のマカオの薬

(東大薬・医薬経済研) ○リヨン・フォンマン・アグネス、津谷喜一郎

昭和時代の医系総合教育を目指した人

(昭和大・薬) 塩原 仁子

〔特別講演〕 (16:20～17:00)

薬学教育の現状と将来

(昭和大・薬) 富田基郎

〔懇親会〕 年会終了後、タワーレストラン(昭和大学病院17F)にて

◆新刊紹介

「薬の品質—本草書から GMP まで」

服部 昭 著 (新風舎) 1,300円 ISBN4-7974-3129-6 COO47 ¥1,300E

この度、本会会員・服部昭博士が薬の歴史書を上梓されたので紹介する。本書は企業人の眼からみた医薬品の歴史を品質管理という切り口を通じて、神農本草経の時代から現代 (GMP) までの長い薬の歴史を重点的かつ簡略 (160ページ) に纏められた労作である。著者は医薬品企業に、長年、携わった業務を通じて医薬品の「品質観」が組織、個人で、まちまちであることを体験し、医薬品の歴史を通じて「医薬品の品質」の概念を明らかにしたいとの目的で本書を纏められた。本書の目次内容を次に示す。

- 第1章 薬の始まりと産地
- 第2章 江戸時代の偽薬 (にせぐすり)
- 第3章 江戸時代における製薬現場
- 第4章 明治新政府の医薬品行政
- 第5章 日本薬局方の制定と品質
- 第6章 海人草とサントニン
- 第7章 ペニシリンとQC (品質管理)
- 第8章 国際化と医薬品の安全性・有効性
- 第9章 現代における生薬の品質

内容の一端を紹介すると、第2章に江戸時代の偽薬取締の項がある。江戸幕府が薬務行政で最も頭を痛めた一つに偽薬問題があった。偽薬が出回るとは市民の生活を脅かし社会を混乱させ幕府の安泰を妨げるので、徹底的に取り締まる必要があった。例えばニンジン、熊の胆、テリアカ (膏薬)、ヲクリカンキリ (南蛮渡来の利尿剤) などに偽薬が多かった。寛文11年 (1671) 11月に幕府は次のような御触れ書きを出している。「どの地域でも偽薬は一切禁止する。もし薬種商が偽薬を売っていた事実を訴え出れば、褒賞を進呈する」と禁止命令を出し違反した場合には軽重により死罪もしくは流罪にするとし、町人にはこの禁止事項を高札で示した。「毒薬、偽薬の売買を禁止する。違反すれば重い罪が科せられる」(宝永8・1711)。実際例として大阪で高麗ニンジンと似ている広東人參を売り付けた町人2人が幕府評定所により、引き回しの上、死罪にされた。

医薬品の歴史を、偽薬と本物の相剋から取上げて、現在の適正な使用によって評価を受けた良品の医薬品に至る迄を辿った内容で、一読をお薦めする。

(なお、本書の内容は日本商品学会の「商品研究」(1994~1998)に発表した論文を修正、追加したものである。)

著者略歴

服部昭 (服部あきら) 1936年大阪府生まれ。名古屋市大薬学部卒。藤沢薬品工業入社 (医薬品商品化計画・包装設計従事)。薬学博士。技術士 (生産管理)。

現在。小西製薬。龍谷大学経営学部非常勤講師 (医薬品商品学)。

(山田光男)

[日本薬史学会50周年企画うら話]

すでに機関誌・紙で紹介している通り、明'04年は日本薬史学会創立50周年に当たり、記念の行事・事業が企画されています。

以下に一部を紹介する「日本医薬史蹟・博物館案内」もその一つです。紙面の都合もあり、約百箇所を選ぶとすると、各府県2～3箇所と制限されてしまいます。ところがその推挙がとて難しく、思うようには進行しておりません。これは今後、全国におられる会員各位の発掘を得て、内容豊富な案内にして行く外はなく、今回はその呼び水とせざるを得ないと考えております。

医学関係では既に、

- 日本医史学会編「図録日本医事文化史料集 第5巻」(三一書房) (1979)
 - 酒井シヅ監修「医のふる里を訪ねる・日本の医史跡20選」「続20選」「続続20選」(バイエル薬品(株)) (1992～'99)
 - 酒井シヅ監修・日本医師会編集「医界風土記」全6冊(思文閣出版) (1993～'94)
- など、多くの執筆並びに組織的取組がなされ豊富な内容が集められておりますが、わが薬史学の世界では、
- 上田三平・三浦三郎「日本薬園史の研究」(渡辺書店) (1930～1972)
 - 宗田 一「日本製薬技術史の研究」(薬事日報社) (1965)
 - " 「図説日本医療文化史」(思文閣出版) (1989)
 - " 「日本の名薬・売薬の文化誌」(八坂書房) (1981)
- など限られており、その他
- 三浦孝次「加賀藩の秘薬」(石川県薬剤師会) (1967)
 - 玉川しんめい「反魂丹の文化史」(晶文社) (1979)

など特定の地域の薬史に着目した内容で、今後大規模に取組む必要があります。

○石塚博文「くすりの史跡めぐり」(薬業界新聞社) (1992)は、著者が薬事関係事項につき、幅広く考察したもので、今後の検討で新たな収穫が期待できそうであります。

医薬史蹟の案内作成に当たり、医史学会関係者によって纏められた史料は、出来るだけ使用させて頂いていますが、医師の診療・研究業績について回顧することも多く、従って墓石の所在を示すに止めることもあります。それに対し薬の史跡では、「もの」の存在を求める傾向にあり、その為に苦勞することも多々あります。

一方、もの関連の施設として、鉱山・寒天製造地、厄払いの祭事も拾いたい項目となります。「運動に勝る薬なし」の諺を視野に入れると、健康祈願の季節行事も守備範囲として入って参ります。つまり今後は、保健・医療・福祉の諸課題が広く取り扱いの対象になりましょう。

保健・医療に係わるあらゆる物的史料が求められることとなりますが、これを機会にお願いしたいことは、例えば各県の薬剤師会などで歴史に興味を持たれる方々に、以上の立場からの情報を拾い・整理して、これを全国規模で検討しては如何かという事です。そして先ず、本学会会員がその口火を切って頂きたいのであります。

日本薬史学会創立50周年記念事業の詳細は、明年4月の総会時に発表しますが、その間、機関誌・紙などで順次報告いたします。